

DC161

5



00735329



0022292000

3

0022292-000

DC161-5

建設期満州の経済方策

井藤栄・著

河野繁

1934

ADC

昭9
A
1457

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年5月15日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

昭9
A
1457

建設期滿洲の經濟方策

井 藤 榮

立憲民政黨
政務調査館

昭9
A
1457

9. 12. 1.

建設期滿洲の經濟方策

井 藤 榮

建設期滿洲の經濟方策

332323

建設期滿洲の經濟方策

内容目次

序	一
一、日本及び朝鮮の政治經濟的交渉	三
二、滿鮮ブロックと在滿鮮人問題の再批判	七
三、滿洲農民經濟の崩潰	一三
四、滿洲税制の缺陷	二六
五、滿洲通貨政策の總觀的批判	二九
六、インフレーションへの必然的歸結	三四
參考資料	四三
附言	四九



DC161
5

序言

我々が滿洲國の建設に當り、積極的に参加したるは直接的には滿洲國の樂土化への爲めであつた。而して間接的には日本の經濟的行詰り打開の爲めでもあり、日本が正しき日本の姿、建國の精神に還へる爲めであつたのだ。従つて、斯かる運動は全日本の國民全體の全副的支持と壓倒的熱誠を通じてのみなし得るところのものである。

具體的には政治的、經濟的、社會的危機に當面せる日本の甦生運動は、滿洲に於いて處女地を得、滿洲より日本へ押し及ぼされんとする東洋永遠の正義の運動である。斯くて即ち、日本の産業經濟上に於ける微弱さに對する原料供給に因る補強工作の爲めである、全日本に溢れる失業地獄救済の爲めの一助としての鮮人労働者の滿洲還元と日本の原始的、封建的産業なる農業生産に對す救済でもあるのだ。

然るに指標は、今や漸く裏切られんとし、滿洲農民の非人間的窮乏化の實相を見出すのである。斯くては我々大和民族の、滿洲國建設に關する積極的参加の本來的意義に反するところ頗る甚大にして、吾人の見るに忍び得ざるところである。

.....(1).....
此處に農業國滿洲の再批判と再認識の必要に當面し、非才淺學を顧みず、一矢を放ち、聊か參考に供した

いと期するものである。

幸にして、大方の讀者の御判讀と鞭達を希つて他日の完成を期したいと所存する。

昭和九年十一月下旬

著者識す

著者識す

一、日本及び朝鮮の政治經濟的交渉

今や、世界列強共通の主要問題は植民地統治難であらう。蓋し、資本主義の世界的老朽過程に於いて、諸國家間に昂る必然的問題にして、その代表的形態をイギリスの印度統治過程に、アメリカのヒリツピン統治過程に、フランスの印度支那統治過程に於いて見る。而して又、日本の現下の外地米統制問題を通じて現れたる、朝鮮、台灣の問題も、その一つの流れが、經濟的現象を通じて現れたるもので、それは極めて單純なる外地米統制の問題ではなく、日本資本の植民地統治難の一斷面であり日本經濟プロツクの内的矛盾として見る時、始めて問題の眞隨に觸れるこゝが出来るのである。

吾人は、日本の發展の展望に於いて、日滿プロツク問題を論ずる以前に、日本に對する朝鮮の寄與如何を究明し、これが日滿プロツク經濟上に努める役割を展開するのが至當であるに信ずる。そして、斯かる基本的建前の下に當面の重大問題たる外地米問題を捉へて、日本に對する朝鮮の存在如何を知らんこゝするこゝが具體的であり、實踐的であるに信するのである。

先ず問題の端初は、朝鮮合供以來に於ける日本資本の朝鮮進出に、これに伴ふ朝鮮農業政策の動向が取擧げらねばならない換言すれば、鮮農は、母國日本農業の主要なる米作を中心として居り、養蠶業の經營にまで及ぼし、其れが爲め、母國農業の主體に基礎的な對立關係にある。勿論、斯かる場合、朝鮮に對して唯だ、農業の對立關係のみから見るこゝは妥當ではないかも知れない、即ち、其の領土に言ひ、その人に言ひ、又其處に築かれである前資本主義的固有文化に言ひ、極めて複雑ではあつたが、其れにしても、其の包藏する資源、或は農業形態が母國のそれと異つてゐる場合には、母國への良き原料植民地であり同時に母國諸産業の良き商品市場であり得るのであるから、母國への水準に迄て總べての經濟文化が高められない間は、母國

この経済的對立が招來されないであらうことは何等疑ひの餘地がないところである。
 斯かる場合注意を要すことは、母國資本の朝鮮への進出、従つて母國資本の朝鮮農業支配の關係である。同時にそれは反轉して母國に於ける非資本主義的産業への再支配關係への發展である。具體的には、母國資本は、植民地へ進出して其處に群在する低價なる土地獨占、低賃銀勞力を動員して請負耕作的機構の上につつ農業經營を行ふと同時に、他方其の生産物の買獨占及び賣獨占を以つて母國市場へ賣向け、母國農業に對して決定的な被害を加へる。而して、斯かる實例を現在問題となつてゐる低價な朝鮮米移入問題に見出すことが出来る。

且つ、植民地農産物の母國同種農産物への壓迫過程は、反面に於いて植民地人口の母國誘導化への行程であり、それが同時に内地社會問題への激化であるを見逃すことは出来ない。事實、母國資本は植民地農業の支配過程に於いて夥しい過剩人口を低い生産様式を高い生産様式に置き換へることに依つて發生し、其れた壓出し、そして其の一部を比較的高賃銀關係にある母國勞働市場へ販り起て、失業地獄を再激化する。此の實例は、郷土を鮮内に置く人々が、如何に多く日本の凡ゆる粗惡な勞働市場の中に入り込んでゐるかを見る時驚異するであらう。

年	航	歸	航	差	引
大正六年	一四、〇二二	三、九二七	一〇、〇八五		
同 七年	一七、九一〇	九、三〇五	八、六〇五		
同 八年	二〇、九六八	一二、七三五	八、二二九		
同 九年	二七、四九七	二〇、九四七	六、五五〇		

同 十年	三八、一一八	二五、五三六	一二、五八二
同 十一年	七〇、四六二	四六、三二六	二四、一三六
同 十二年	九七、三九五	八九、七四五	七、六五〇
同 十三年	一二二、二二五	七五、四二七	四六、七八八
同 十四年	一三一、二七三	一一二、四七一	一八、八〇二
同 十五年	九一、〇九二	八三、七〇九	七、三八三
昭和二年	一三八、〇一六	九三、九九一	四四、〇二五
同 三年	一六六、二八六	一一七、五二二	四八、七六四
同 四年	一三五、五七〇	九八、二七五	五五、二九五
同 五年	九五、四九一	一〇七、七一	▲一一二、三三〇
同 六年	九三、六九九	七七、五七八	一六、一二九
同 七年	一〇一、八八七	六九、四八八	三三、三九九
計	一、三七九、八九一	一、〇四四、六九七	三三五、一九四

斯くて失業救濟事業、鑛山、土木建築業に至る一切の粗惡勞働市場は、鮮人勞働者の職場であり、城塞化した。
 換言すれば、當面の外地米問題に就いても、現れたる形態に於いてのみ論すべきでなく、問題の裏面に窺む全秘密を究明追跡することに依り、其の真相に觸れることが出来る。

植民地資本に對する社會的評價は、母國のそれに比較して三十乃至四十パーセントの低價である、従つて事業は朝鮮に於ても米穀の基礎的生産手段が絶對的に有利であることが判明する。此の外、可變資本としての勞力は決定的に低價であるが爲め、生産品に對する確定的な母國市場が嚴存する限り、その競争力は極めて旺盛である。況んや血税としての兵役を免れて居る植民地大衆の負擔する租税公課は、決定的に低額である。今、試みに内地米並に朝鮮米の生産費を比較するに（單位圓）

	一二年	一三年	一四年	元年	四年	六年	八年
内地	四三・〇二	四二・六五	三九・二五	三六・九九	二九・六二	二二・三五	二二・三四
朝鮮	二〇・七八	二六・一六	二二・〇二	二八・一八	一三・六八	一六・三二	二〇・九八

即ち、生産費の決定的存在は、内地米作農業に對する脅威であることは多言を要しない。まして、同一經濟ブロック内にあり、品質に於いて内地米に接近し、生産費に於いて決定的に低價である朝鮮米が、斯くて母國市場を風靡するのは當然であらう、これこそ取りも直さず母國農民への壓迫であることは明かなる事業である。のみならず、會つて國策的必要に於いて、植民地水田開發の急務が説かれ、特に朝鮮では大正八年以降十五ヶ年計畫に依る四十三萬町歩の土地改良事業、及び大正十五年度以降更に十二ヶ年計畫に依る三十五萬町歩の土地改良事業が、國庫負擔に因りて、具體的には朝鮮農業に壓迫を受けつゝある母國農民がその負擔の約五十%擔任することに、朝鮮に進出した母國資本及び朝鮮既存大地主の爲めに遂行されて來たところの必然的所産であるのだ。

今や、朝鮮は、日本の農民、労働者にとつては致命的な存在に化した。

時恰も斯る折、滿洲國は其の直接的原因を朝鮮農民問題に發し、滿洲國は完全に政治的獨立を爲し、朝鮮及び滿洲國は鴨綠

江を夾んで緊密に結ばれてある事實に想到するべき、其處に母國日本の發展的明日の勝利を見出し得るのである、即ち、日滿ブロック完成への先驅的前階梯に於いて鮮滿ブロック工作こそが急務であり、滿洲問題解決の基本的意義は、朝鮮人問題解決かその本來的意義であり、同時に又、日本の農民問題、失業問題解決への一助としての責務が、其の副次的意義となつて我々の前に大きく現れて來たのである。

二、滿鮮ブロックと在滿鮮人問題の再批判

抑々朝鮮と滿洲との關係は遠く滿洲帝發祥以前より始まるものと思ふ、然るに、滿洲帝は支那本土に進出し、一應支那本土を鎮定し、然る後滿洲を其の發祥の地として再編成し始めたものであつた。従つて、滿洲帝發祥當時既に朝鮮との交易は原始的形態に於いて爲されつゝあつたことは疑ひの余地がない。其の後、鮮人が移民としての形態を整へ、入滿を開始したのは日本の文久元年頃に始まるものと傳へられてゐる、即ち、當時にありては鴨綠江對岸地方において筏夫に従事せしものが、其の地方の地味肥沃にして、且つ開墾の容易なるを見て農業移住を爲すに至つた。其後我が明治二年西朝鮮地方に凶歉あり、飢餓に頻せる朝鮮人は先を争ふて越境し、移住者を増加したと言はれてゐる。

然るに張作霖、學良軍閥の暴政、壓迫の下に置かれてゐながらも、外表的には滿鮮關係の消長はあつたが、必然的條件たる朝鮮内の人口過剩と顯發せる凶歲饑饉並に經濟的窮乏に因り生活の脅威を受け、之れに順應するの能力乏しき所より遂に通道的に接壤地曠濶の滿洲平野に生活を求めんとし、又經濟的壓迫、日本人の鮮内移住多く、各種文化施設の擴大に伴ひ各部門に多くの日本人が進入し、固有の在鮮諸施設の崩壊を招きたる爲め、政治的不平分子の境外移住を生じ、此等の不平分子は遂に

國內に止るを好まず、滿洲移住を決行するに至つた。尙ほ文化の進歩と共に、鮮内の物價騰貴を招來し生活に窮して放浪し滿洲に移住する者も亦少くなかつた。そして其の移住増加状態も

年次	男	女
大正八年末	二四〇、九四八	一九〇、二五〇
同 九年末	二六一、八七〇	一九〇、五五七
同 十年末	二七一、一五〇	二一七、五〇六
同 十一年末	二八五、四九四	二三〇、三七一
同 十二年末	二八九、七五〇	二三八、二七七
同 十三年末	二九二、七六九	二三九、〇八八
同 十四年末	二八九、三八一	二四二、五九二
昭和元年末	二九八、一一〇	二四四、〇七五
同 二年末	三〇四、五八二	二五三、六九八
同 三年末	三一三、五九九	二六三、四五三
同 四年末	三二二、六三一	二七五、〇四六
同 五年末	三二五、七八一	二八一、三三八
同 六年末	三三八、四一〇	二九二、五七二

男女合計

六三〇、九八二

を示してゐる。我々は此處に判然と知り得ることは、日本より以前に於いて滿鮮關係が發生し、日本より以上に緊密の度合が深く、且つ其の文化の程度、風習等に至るまで同一歩調を取つてゐたものである。と推定し得られることである。併し乍ら、吾人の見て來た前記の數字は、滿洲に所在する領事館或は地方官憲の目の届く範圍内に在住する鮮人數であり、避境の地、人跡稀なる地方軍閥の壓迫を逃れてゐる移住民も存在するものと推定するが故に、在滿鮮人は百萬を下らないと推定し得られるのである。然らば、地理的に相接し文化風俗慣習等が似通つてゐるものとすれば、最も早く緊密なる關係を生じ、同化し得るのは何等の疑ひを來さないのだ。

しかも、滿洲の地が、民族發生史的に見て、朝鮮民族發祥の地であり、祖先墳墓の地であるに於いては尙ほ更同化の程度は密であり、速急であるを信ぜられる。

現に滿洲には百萬以上に達する鮮人が居住し、彼等が會つて無人の荒蕪地であつた壁地を血と汗を以つて拓き、綠地として開墾したのであつた。而して、貿易上に現れたる經濟的交際状態から見ても他の何れの國よりも密接なる關係にあり、昭和七年度に於ける朝鮮の對外貿易中、九千萬圓の中の六千二百萬圓即ち六十九%は對滿貿易であるのだ、かてて滿洲國の出現は朝鮮民族の行詰れる經濟生活を打開し、更に進んで積極的に朝鮮民族をして、汎アジアブロック結成の世界史的事業に、祖先墳墓の地に於いて参加せしむることを得るのである。即ち、我が大和民族が朝鮮民族の經濟生活發展向上の爲めに、朝鮮社會經濟の發展改革の爲めの努力を寸時も忽にし得ないことは言ふまでもないところであるが、少なくとも現情勢下に於いて、滿洲國誕生は鮮民族の、其れへの合流と強力参加こそが先ず當面の主要問題である、これこそが、日滿ブロック完成の前哨的先驅

的工作であらねばならぬ。

滿洲國生誕以前に於いて、朝鮮民族大衆の滿洲進出を困難ならしめた原因の主たるものを擧ぐれば

- 1、土地商租權を繞る政治的壓迫
- 2、地主、高利貸の經濟的壓迫
- 3、農業生産力の貧弱、移民の生活低下
- 4、土匪の横行

の四であるが、滿洲國成立後に於いても斯かる惡條件は直ちにこれを如何にも爲し得ないところであるし、又土匪の被害も政治的色彩を持つ大集團的兵匪は剽滅したが、農村疲弊に依る農業ルンペンプロレタリアの發生も、その匪賊化の現象は、農業經濟の特來の發展を待つて始めて消滅すべき性質のものである。

そして他方、今後永き過渡期に於いて農業移民にして滿洲に進出し得るものは、此處に生命を拓き得るか、さもなくば死線に置かれたもののみが持つころの不拔の努力、艱難不撓の性質等の精神的諸條件を具有する者を必要とする。而して、その責任者は朝鮮移民を置いて以外にはないのである。

元來日本人移民の困難なることは既に、幾多の事實が指摘され、且つ識者の屢々筆に、口に論じてゐるところである。併し乍ら、吾人は滿洲に於ける日本人移植に關しては敗北主義乃至は日和見主義であつてはならないのだ、それは是非共取行されなければならない事柄である。今筆者宛てに滿洲與地に於いて活動しつつある移民の苦心慘勝たる實狀を通信して來た手紙を掲載して資料の一端に供したい。

「工事其他、御忙がしい事御察し致しますそれでも皆様御健勝の事祝着に存じます。

當地一同元氣でやつてゐます。今年は霜が割合に早かつた爲め、水害で減收の上に更に被害を受け最良好の組で七分作最惡の組で總收量十石と言ふ慘狀です。

全作を通じて八割減收の二分作を見て居ます、先ず大豆四百五十石、高粱二百石、雜穀約五十石位であらうと思ひます。經濟的方面の窮乏は御話の外で、何みかして收穫物―大豆―の脱穀を急ぎ勸業の同意を得て賣却する外、生計費の産み出しやうなく、通遼縣の公金を少し融通して貰つてさうやら今日まで、つないで來ましたが、もう此の上は何んとも方策がつかなくなりまして。大豆の全部が脱穀を終るのはさうしても來月中頃になりませう。

そこで此の際出來るならば例の關東廳の補助金を一日も早く下附して貰ふことが一番早道だと思ひまして今日依頼狀を出しましたが、御多忙中、誠に恐れ入りますが貴男からもよく現下の窮乏状態を御傳へ下さいまして何分の盡力を御頼み下さる様御願ひ致します。

通遼縣からの心配で十五里―通遼から奥熱河の開魯十一月以降零下三十度―程距つた森林伐採の仕事に全村擧げて出かけ度いみ考て居りますが詳細は後報致します(十月二十日)付此の手紙を筆者に齊らした人は日本の國內的人口過剩を緩和するが爲め、而して失業救済の實行方法として敢行されたる、東京深川天照園主と筆者との共同工作に於て農業移民の集團であるが以上に於いて見たるが如く、日本人の農業移民は頗る困難である、がしかし、斯は是非共敢行されねばならないのである。而して、彼等は鮮農の滿洲還元を指導誘導するの重大責務を歴史的に負へるものであることを判然と知つて置く必要がある。(何れ日本人農業移民問題に就てはその方法形態等は他日に述べるであらう。)

それは張軍閥暴政下に於いて、凡ゆる暴政苛斂誅求下に生命を賭けて、人跡稀れな壁地に築た鮮人農民の實證的歴史的功績の事實が明かに證明してゐるころである。

のみならず、鮮人大衆の滿洲進出は母國日本の失業地獄を緩和し、日滿ブロック經濟完成の強力なる基礎を形成するものである。

先ず移民が可能であるが爲めには、第一土地が充分に残つてゐることが必要である。そうして、此れは農業國滿洲に決定的生命を與へる基礎的條件である。その次は政治的條件である、最後に必要なことは招致誘掖し、財政的に補助する移民實行機關の存在が必要である。

滿洲には一八、一七二、五〇陌の未耕地がある。正に日本全版圖の耕地の一倍半に、又、朝鮮のその四倍に相當する。

朝鮮移民は今日迄で政治的、經濟的壓迫、匪賊の迫害を闘ひながら血と涙を以つて、支那農民が棄てて顧みなかつた河川流域の低濕地を開拓し、昭和五年迄に九九、〇一〇陌の水田を作り、同年の收穫高一五五、八六二匁―約百六十萬石―に達したのであつた。然らば滿洲開發史上に於ける彼等の功績は特筆に値ひする。

彼等の全耕地面は水田三、畑作一の割合であつて、此れを以つて直ちに鮮農は水田耕作にのみ有能であり、畑作に對しては迂回であるとするものもあるが、斯は全然認識不足に基く議論である、彼等が水田を多く耕作する様になつたのは、米作が經濟的に有利であるが爲めで、且つ又、先住支那農民の生産物上の經濟的利害對立を避ける爲めでもあつた。實證的に見て、朝鮮内の全耕地面積が却つて水田一、畑作二の割合であるのを見ても、彼等が水田畑作共に勲能であることが判明する。然らば、政治的條件たるや、滿洲國建國宣言に「滿洲國人民は種族宗教の如何を問はず、凡て國家の平等なる保護を享く」と認められ

てゐるから、殘る問題は、鮮人大衆の滿洲進出に對する實行方法乃至は積極的支持指導如何の問題となる。

今や斯る問題のみが全幅的に敢行さるべき工作であらねばならぬ。

他方國防的見地より見たる時、當然其處に想起さるべき事柄は國內的充實如何の問題であらう。

現在の如く、日本に對する朝鮮の存在は寧ろ一部の人の、間には反感さへ生じつゝあるの現情である。斯くては、非常時日本が當面せる國際的危機は、既に國內的にも對朝鮮關係に於いて危局に遭遇せる以上二重の危機であると言はねばならない。

吾人は、一九三五、三六の國際危機に向ひ國內的危機の解消せざる限り、非常なる危険性を感知せざるを得ないのだ。

此處に内鮮融和の現實性が存在する。併し乍ら、我々が前項に於いて見たるが如く經濟的に鮮農と日本内地の農民とが對立關係にあることは内鮮融和の一大障害となりざるを得ない。然らば、國際的危機に當面せる日本の當然採るべきしかも有効なる方法は、朝鮮民族祖先の地滿洲への還元に對する全幅的援助と、當局の積極的具體策の實行である。而して其の實行たるや將來の事ではなく、今直ちに實現さるべき問題である。それは國際危機の嵐を前にして急速なる具體化こそ大なる効果を齎すであらう。

三、滿洲農民經濟の崩潰

一、滿洲農村社會の特質

世界恐慌は今や第六年を迎へ、滿五ヶ年を経過せんとする。金輸出禁止、高率禁止關稅、産業統制、ブロック經濟、遂には世界經濟會議等々まで持ち出されたが、恐慌の對策は得られなかつた。滿洲經濟も世界經濟の一環たる限り、獨りこの恐慌の

渦から脱れることは不可能である。一九三〇年には既に明白なる恐慌の姿を帯び、一九三一年には後半を滿洲事變の突發により其の景氣下向に一層の混亂さへ加味した。一九三二年以來、所謂滿洲景氣を招來し、主要都市に滿洲景氣が現れた、然るに其の底では相變らず恐慌の渦が巻いてゐた。

滿洲經濟の破綻を招來する。斯くの如き滿洲に於ける恐慌の進展は、政治的、經濟的に重大意義を持つものである。

吾人の責務は此の恐慌よりの解放を、滿洲經濟の輝かしき明日を、恐慌の正確なる把握によつてのみ可能にするのだ。

經濟恐慌を論ずるに當り、農業恐慌の部分、工業恐慌の部分とを區別する。だが「農業恐慌の理論は一般恐慌理論が出發すると同じ社會的、經濟的諸要素から出發して農業恐慌が、その中で發生し、形成されることの個々の特殊性と諸形態を國民經濟のこの部門が工業に比して有するところの技術的、社會的並びに歴史的特殊性の關係に於いて研究しなければならぬ。」即ち滿洲に於ける農業生産が未だ封建的段階に低迷してゐる限り、その恐慌部面に於ける特殊性が資本主義的近代産業に比して認められなければならないのである。それは擴大再生産、從つて恐慌の爆發と言ふ形態を取らないで、封建的な單純再生産による農産品が、その發展の歴史的特殊性に基き、完全に世界商品化したことによつて、價格低下を通じて世界經濟恐慌の影響を受け、滿洲農村社會の持つ封建的特質と結びついて農村經濟の破壞に至るものの形態をみる、吾人は農業恐慌を究明する場合に、これを資本主義的經濟と結んだ問題として取扱はねばならない、從つて、古代社會乃至は封建的社會に於ける旱魃、洪水、地震等々に依る凶作、家畜流行病、内亂、戰爭等に因つて惹起される農耕上の危機を、恐慌の一般的理論の内に入れることを排除する。又、今日、農業生産は、直接間接に國際的資本の網の中に有り、一切の農業生産品が國際商品化してゐる事に注意を要する。最後に、農村に於ける社會關係が、恐慌に對して持つ役割を究明せねばならないのだ。

斯くて、恐慌の誘致した僅かな價格の低下も、農村に於ける社會的特質と競合することにより、恐慌も單なる生産的領域から農村に於ける社會的危機に迄で發展せしめる。農業恐慌の社會的要因は、農業の非資本主義的性質である。換言すれば、農村に於ける遅れたる種々の社會關係これである。即ち滿洲に於ける農業生産の段階は今尙ほ封建的な階段から脱出してゐない封建的な高率地代により、小作農民の搾取を目的とする小作制度の支配的體制としての存在、從つて、高率地代の資本化された高い土地價格課税の形を取つた封建的貢納の存在、技術的改良の絶無等は、僅かな農産品價格の下落をも致命的な決定的なものとする。

元來、滿洲農村社會の封建的特質は

一、農家一戸が生活を維持し得る耕作面積は南滿洲五、六町、北滿洲八町乃至十町と言はれてゐるにも拘らず、事實は此れに反し、からうじて一戸の生活を維持し得る程度の耕地に、家族全體の労働を集中し、替々として倦まざる姿こそが滿洲農民の實情である、その生産技術も、労働の編制、機械の使用に於いて、何等近代文化の影すら發見することが出来ない、家畜と畜養と手工業的人間労働によつて組成された、労働集約的經營は、封建的生產様式を一步も出でていない。斯から封建的段階への生産力發展の膠着の原因は、封建社會に於ける基礎的生產部門であつた農業生産關係。即ち土地所有の封建性そのものである。

二、滿洲民族はその入關以前にありて、經濟的には奴隸制と農奴制との生産を基礎とする經濟生活の階梯にあつたのである而して政治的には、經濟的下部構造に照應して、貴族獨裁の專制的體制を採つてゐた。清朝の基礎が漸く固つて建設期に入るや、清朝が自らの舊來の經濟生活の基礎たる奴隸、農奴生産を廣く滿洲の地に再建せんとの意圖を抱くに至つた。此處に官莊

莊園、旗地、寺廟地等が代表する封建的農業體制の生れ出た由因がある

併し乍ら、當時の支那國民經濟は、奴隸生産或は農奴生産に基礎付けられた經濟生活が、既に一千年の過去に於いて經過し終り、清朝政權樹立の當時には、高度に發達した商業高利貸資本の支配的階梯に在つた。清朝政權は政治的には支那本土の征服者ではあり得たが、入關と共に、急速にこの高度の商業高利貸資本が體制付けた漢民族の文化に同化せねばならなかつたのであつた。従つて、生成し、發展するこゝが出来なかつた。

他方、清朝政權は、支那本土から招來した自由農民を以つて、一般民地を稱呼せられる土地形態を、これに照應する農業關係の建設に努力した。これは、當時支那國民經濟に支配的であつて、しかも、商業高利貸資本によつて體制付けられてゐたこゝろの農業諸關係の直接的移植であつた。一般民地に於ける封建性は國家に對する貢租の關係に於いて具體化された。

斯くの如く形成された土地を中心とする封建的農業關係は、近代資本主義により滿洲經濟の世界市場の一分野編成も、民國革命も國民黨政權もその封建的本質を變革するこゝは出来なかつたのである。清末葉以來の商業高利貸資本の農村社會に於ける活動は、土地讓渡可能を要求し土地所有の身分制的、世襲的法律形態を崩潰せしめ、土地の零細分化を結果した。又、皇室財政と國家財政の一應の分離税制の一應の近代化をも遂行した。だが、農業關係の封建的本質は依然として揚棄されずに終つた。地主對小作人の關係に於いて、農業關係における封建性が再生産され、高率小作料と高率課税の内に近代的扮装をした封建的農業關係が再生産された。

三、支那本土より侵入して來た商業高利貸資本の活動は、土地の讓渡可能の漸次的確立を通じて身分的、世襲的土地所有を没落せしめ、自己自ら乃至は官吏階級をして新しき所有者として半農奴的生産の支配者たらしめた。他方、一般民地に於ける

自由農民も、商業高利貸資本の破壊的機能の下に、階級分化の過程を進行せしめられ、地主對半農奴的小作人の關係を支配的體制とする滿洲農村が編成された。

封建的地代の特質は、それが餘剩價値の唯一の形態であるこゝに存する、生産せられたる餘剩價値の全部を擧げて土地所有者に歸納される、斯くて滿洲農村の小作制は、小作農の再生産の擴張を困難ならしめ、場合によつては其の生活料までも生命の維持に必要な最低限度を越す迄に奪ふこゝさへあると言はれる程の、封建的高率地代の存在となつて來た。(具體的には一等地折半、二等地主四、小作六、三等地主三、小作七、荒蕪地開墾は三ヶ年免租)

四、農業關係の封建的本質は、小作制度に於いて具體化せらるゝのみならず、課税の形態に於いて貢納を實現するこゝによつて、國家對土地所有者の關係の中に再生産せられた。

五、ウィット、フオーゲルは商業高利貸資本に就いて次の如く述べてゐる。即ち、
「農民から直接に搾りこられる價値要素は、或は農民により造り出され、租税や借地料として支拂れなかつたこゝろの、彼の労働收穫の餘剩部分から成つてゐる事もあり得る。だが、斯る場合は稀である。農民の生産物の買占めによつて得られる巨額の超過利潤は、收穫の直後に餘儀なくされる農作物の投げ賣りによるか、或は又、農民生産の營業方面に關する限りでは、何よりも先ず資金前貸によつて擧げられるのである。兩方の場合とも、損害を蒙るのは富農ではない。富農は穀物の賣却の時期を選ぶ事が出来る、被害者は中農及び小農である。従つて、支那の穀物買占人が主として其の利潤を擧げるのは、農民の商品生産の富裕からではなく、寧ろ、其の反對の貧困からである。支那に於ける窮乏化する農民大衆の増加に伴つて、支那商業高利貸資本の搾取領域は、彼等の利潤と經濟力を増大して來たのである。」

アジアに於いては、高利貸業は其の寄生蟲的作用を、何よりも先ず農業に於ける小生産者に對して發揮した。しかし、此の場合にも勿論階級としての農民には手を觸れなかつた、農民から高利で搾取する爲めの努力は、農民が其の土地の所有者である間は彼から其の所有權を奪ひ、彼を小作人の地位に引下げる事に向けられてゐた。そして農民が既に小作人になつてしまつてからは、彼の土地勞働の總ての生産物を、最低限の生活必要量だけ残して奪ひ去る言ふことに向けられてゐた。

六、凡ゆる封建的搾取の最上位に軍閥は位置を占めてゐたのだ、此の軍閥の存在が如何に封建的農村關係に及ぼすところ甚大であるかは、此處に喋々を必要としないであらう、即ち、彼等は、彼等自身廣大なる土地の拂下げを私することによつて、封建的高率地代による農民搾取の尖端に立つのである。又、總べての苛捐雜税を農民に轉嫁することに依つて莫大なる浪費軍閥戰爭、彼等の奢侈の費用を收奪して行く、そして、軍閥の直接的な維持費、即ち軍費は、國家財政收入の八割以上を占めた。商業高利貸資本並に地主三位一體的に融合することによつて、彼等の寄生蟲的作用を保護し時には彼等自身斯かるものとして現れる。軍閥こそ封建的惡鬼の政治的支柱である。

二、滿洲農村社會の崩潰過程

滿洲農業への資本主義侵透過程は、取りも直さず世界市場との結合過程である、それは、鐵道の敷設によつて可能となり、特産物大豆を世界的商品たらしむる事により、完全に世界經濟の一分野となり終せた。近代資本主義の強力は斯くて滿洲農業を自己の支配下に置いた、だが其の封建的生產様式の變革はなし遂げなかつた。依然として繼續する封建的搾取は農民には神秘的でさへある價格の變動を通じての資本主義經濟の影響を滿洲の農業は受けることになつた。

鐵道の建設は生産市場との結合を可能にする農産物商品化の爲めに缺ぐべからざる前提條件である。一九〇三年、東支、北支の兩鐵道開通以來、内外兩市場とも未曾有の急テンポを以つて發展して行つた。鐵道延長が擴大すると共に、大豆出廻量従つて生産額が増加して行つた。他方、鐵道は莫大なる農業移民を送り、耕地の擴大を促進し、彼等をして世界的商品の生産者として生長せしめ、又、其の購買者をも生成し、沿線には都市の成立、發達を促した。斯くて鐵道の敷設による滿洲農業生産品の商品化の基礎的前提條件の充實は、列國の商業機關の一齊の進出を引起し、特産大豆は完全に世界經濟の網の目の中に織り込まれた。

だが耕地の増加、大豆作面積の増加を招來したものは、農業生産に於ける資本主義的技術の採用ではなく、山東、河北等の北支那農村の破壊と共に溢れ出た移民の來滿による所産であつた。年々二十乃至三十萬、一九二八年の如き實に六十九萬に達する移民が、主として來耕の可能地を持つ吉林、黑龍江省に流れ込んだ。そして、彼等により、滿洲農業發展の人的條件が保たれた。併し乍ら驚くべき生産の増加も、農業生産に組織的變化を齎らしはしなかつたのであつた。

封建的生產様式の徒らなる擴大再生産であつた。赤手空拳、郷土に於ける没落から這ひ出んとする貧困農民に資本のあり得る筈もなく、商業高利貸資本も限りなき、高率小作料の收奪を好んで寄生的地主制度の中に安住した、移民は多く小作人か雇農となり、其の雇農も近代的農業勞働者ではなく、封建的作男にしか過ぎなかつた、斯くて封建性を揚棄することなく、停頓した滿洲農村社會は、今や、質的後退を開始した、具體的には、大正十三年以降、昭和四年に至る六ヶ年の間に生産指數は一二六に過ぎないに對し、作付指數は一五八に達してゐる。開墾地の生産性低下による部分と共に、全體としての滿洲農業の後退性が明かに認められる。

農業部門への資本主義の侵入は、商業農作物の飛躍的な増大、農民經濟の貨幣經濟化の過程を通過した。斯かる變化は、農業生産の分野に於ける封建的單純商品生産の量的擴大に因つて實證された、従つて商業高利貸資本の農民に對しての解體的機能發揮せしめる範圍を極度に増大した。斯くの如くして生産の躍進の裏面に、階級分化が、一方に地代を目的とする地主階級が、他方には小作農雇農の廣汎な層が、そして富み貧困が蓄積され行くところの過程が現れて來た。

一九二九年の秋、アメリカ取引所恐慌に端を發し蓄積された戦後資本主義の矛盾を暴露した世界恐慌は、凡ゆる國々を不況のドン底に突き落し今や恐慌六年を迎へたにも拘らず、しかも其の恢復に就いては何等の見透しさへも持ち得ない。底知れざる恐慌の激化は、滿洲を獨り景氣の島として取残しては置かなかつた。換言すれば、滿洲はそれ自體を單一的自足體として經濟を形成してゐるものではなかつた。即ち世界經濟との結合を急テンボに完了し商品大豆を中心とする年七億に餘る貿易額を無視して論ずることが出来なくなつてゐた。従つて、恐慌の巨浪は關稅壁さへ持たない滿洲市場を瞬間にして巨大なる激浪の中に捲き込んでしまつた。

世界恐慌に依る購買力の低下はヨーロッパ油房の不振、延いては原料大豆の輸出の激減となつて現れた、又、日本農業恐慌の發展は、豆粕、従つて原料大豆の激減となつて現れて來た。狹隘化する外國市場そして又、價格の慘落と恐慌の影響は滿洲一般民衆の購買力低下となり、國內市場のより一層の狹隘化を招來した。急激なる價格暴落が、全農業生産物を例外なく襲つた、此の價格の下落を堪へ忍ぶには、滿洲農村の封建的構造は餘りにも無力であり過ぎた。恐慌過程の發展と共に、廣汎なる没落が滿洲農村の危機を醸成したのであつた。

三、滿農民經濟の全線的崩潰

滿洲に於ける主要輸入品が鐵、機械等々の近代資本主義的商品たるに反し、輸出品が大豆を先頭とする非資本主義的農業生産物であるところに、プロツク經濟下にあつては致命的な弱點を有する。斯かる弱點は、封建的農村社會の特質は交錯して滿洲農民經濟の全線的崩潰への重要な素因を形成する。

其の實相を先ず滿洲特産の王座を占める大豆慘落に見ることにしよう。

今日、北滿地方に於ける大豆相場は一ブード國幣三、五十錢と言ふ状態で、農民は塗炭の若みに陥り、商工業も全く窒息せんとするの悲惨は狀況を現出してゐる。而して、農民困憊の原因は勿論大豆及其他の農産物の市場價格の下落によるものであるが、運賃の高いことも農民經濟崩潰の拍車となつてゐる。即ち、會つて大豆一ブード一圓五、六十錢を見てゐたものが、今では三、五十錢の相場となつてゐるにも拘らず、依蘭地方からハルビンに大豆を持込むのに二、三十錢を要するのである。汽車の運賃に就いて見ても、呼海線から海港まで運搬するには大豆一車に約一千圓を要する現情である。斯かる現情であるが爲め出荷されるのが頗る遅い。筆者が本書執筆中に、富錦に一、八〇〇車、依蘭に二、二〇〇車、桂木斯に八〇〇車が運賃値下げを持つて滞貨されてゐるに屢々耳にしてゐたところである。今、試みにハルビンを中心とした運賃と地方相場を摘録すれば

地名	相場	滞貨數	一ブード運賃
綏化	四〇錢	七五〇	一二錢 (哈着)
海倫	三〇錢	四〇〇	二〇錢 (哈着)
泰安	三二五	一、二五〇	六一錢 (大連着)
克山	二七錢	四〇〇	六四錢 (大連着)

富錦	三一錢	一、一〇〇	二四錢 (哈着)
桂木斯	三五錢	九〇〇	二〇錢 (哈着)
三姓	三九錢	二、二〇〇	一八錢 (哈着)

(但し、呼海線及び齊克線、松花江一帯の大都市大豆推積數量で、農家及び小都市、沿路の推積量は除く) 一ブードは二七二五斤!

更に、農産物はそれ自體に相當の負擔が課されてゐるのである、例へば安化地方に就いて見ても、一响一滿洲では地方に依り不同であるが綏化地方では二百坪一に對し

每响大租	(地租)	五〇、〇〇
山林水上遊撃(馬賊討伐費)		一三、〇〇
自治費		三、七〇
省立中學校		一、二〇
小計	(以上省稅)	六七、九〇
保甲費		六〇、〇〇
警備費		二六、七〇
學費		三、七一
實業費		一、二〇

保衛團費

小計

(地方稅)

合計

三二、〇〇
一、二三、六一
一、九一、五一

而も、農民は如何なる理由に基き課稅されて居るかさへ解し得ないのである。恐らく、張軍閥下に於いて課稅の經驗の再生産として解釋してゐるのではあるまいか?

轉じて農民の耕作に對する、採算狀況を見るに一响に對して人夫賃一二圓、耕作費一〇圓、諸稅二圓、合計二四圓であるにも拘らず收入は、一响當り四石收穫を原則として、石三圓見れば一二圓に過ぎず、其他、市場への運搬費、一馬車六石積として宿賃其他の雜費を合す三圓に達し、小作の場合には一圓五十錢を地主に支拂ふことになつてゐるので、汗水流して、耕作生産して賣上げが入費の半に達しないことなるのである、のみならず、販賣に際しては、賣上百圓に就き警備費二パーセント、教育費一パーセント、即ち三圓の諸入費が差引かれるのである、又、斯くの如き出費の以外に、馬賊の徵發を受ける場合もあり、自己防衛の爲めには銃器彈藥を備へて置く必要がある。此れ、北滿地方に於ける農民經濟の實際である、之に就いてハルビン商工會議所の調査を綜合するに「北滿穀倉賓黑地方に於ける大豆の生産費は一响最低二十三圓乃至最高二十七圓、平年作の場合は一响より七十ブードの收穫が得られ、昨年收穫前豐作が豫想されてゐたが、實收は一响四十ブードに過ぎなかつた。この生産を以つてして、馬車便により大豆を鐵道沿線の糧棧(穀物間屋)のある市街地に搬出した値段は、昨今國幣三十錢、四月十日の相場は綏化で三十四錢であつた。今、假りに四十錢とするも四十ブードの販賣代金は十六圓で、二十七圓の生産費と比較して十一圓の不足を生ずる、今少し奥地に入り、生産費は二十三圓で生産し得るが、大豆の相場も安く一ブード二

十錢、販賣代金八圓乃至十圓で一响當り十三圓の不足を告げるこゝになる。これは自作農の場合であるが小作農になれば、此の外に地主に對し一响當り小作料として高粱四斗、大豆四斗、粟四斗合計一石二斗を納めなければならぬのだ、その苦痛は自作農以上であるこゝも勿論である。昨年既に農民疲弊の第一歩に入つた結果、滿洲國政府は四月春耕資金一千萬圓を融通した賓黒方面一級化を中心とした該地方には五十四萬圓（最高一人三千圓を借り受けてゐる）然るにこの資金は昨年收穫期に元利金の返還が出来なかつたばかりでなく、更に改めて政府より五十萬圓の追加貸下けを受け緩化地方へは、其中より十六萬三千圓貸下けられた。昨年の貸下標準は上等地一响當り十圓、二等地七圓、三等地五圓と言ふ割合になつて居るのである。北滿の總人口一千五百萬人の、鐵道沿線大小都市に居住するもの二百萬をすれば、千三百萬は其の背後地に居住せるもの即ち農民である。此等の農民は數年前の東支鐵道問題抗争當時の經濟界の激動から、不況の具體的の第一歩に入り、引續いて起つた銀價の世界的暴落に依り第二期に入り、世界恐慌の浪に禍されて著しく苦痛を嘗め、その後滿洲事變、ハルビン事變、未曾有の北滿水災、農産物の大崩落等引續く困苦に直面したのであるが、而かも、既往三年に亘る匪賊の害は、以上の何れにも増して激烈なるものもあり、黑龍江沿岸の村落中には人間はもとより牛、馬、犬、鶏の家畜さへ見ないと言ふか如き地方さへある。背後地が斯くの如くである以上、ハルビンを中心とした鐵道沿線の大小都市は、都市建設以來未曾有の苦境に呻吟してゐるのであるが、ハルビンの例を見ても、昨年末破綻した商店は百二十軒、舊年末後二ヶ月中に倒産した中以上の商店百十八軒を算し、更に幸ふじて年關を越したるも、從來の商業を繼續して行けないもの三百數十軒と言ふ驚くべき數を出し、元宵節後中以上の商店から減首された失業店員の數は三千數百人を算してゐる。斯かる慘狀は、ハルビン開設以來の事柄で、其の近因は一に農産物の慘落により、農民の疲弊、購買力の絶滅で、治安維持上、又人心安定上、又拓け行く産業開發上重大なる惡結果を招來する

こゝを怖れるのである」

農民の疲弊、今や其の極にあるこゝは想像に難くないこゝろである、事實北滿地方では一車の大豆の運賃が一千二百圓に達し、奉天附近のものは二百圓内外で済む、賓黒地方の大豆は浦鹽に搬出されてゐたものであるが、通過貨物が打切りを爲されるこゝになつた現今では、東部國境の積替其他の理由に基き危険が生ずるが爲め滞貨されるに至つた。松花江の下流河川運航の運賃は、遠大なる計畫ではあつたが、統制された結果は割高になつた。それで生産品は停頓した。沿線に持出すには匪害があるので、保甲運搬になつて之れも割高になつた。奪掠を懸念する手持も原因の一つになつた。残つた大豆、當時一圓七、八十錢にしたものが夏になるに八、九十錢になり秋には五、六十錢になり、今年に入つて、三、四十錢になつて遂に賣れないこゝになつた。賓北地方は一アルシン一三呎一の木線が二ブードの大豆と交換されなければならぬ、こゝになり、石炭は倍額となり、鹽は殆んど二十倍も出さなければならぬ、豆を賣つても品物が買へないので、ボロ着物を着て、石炭の代りに大豆を焚いてゐるのが、北滿地方に於ける農民の現狀である。

農業國滿洲の基本的主體たる農民の生活は非人間的である時、滿洲國政府の幹部は窃かに高給の一部を上海方面の銀行に預金してゐるこゝろは事實である、國都建設の進捗する時農民は飢餓窮乏のドン底にある。此れが果して「一に順天安民にあり」「三千萬民衆の樂士實現」の實相であり、「野に飢を絶滅する」にある王道の本義であらうか。吾人は寧ろ、王道の本義は眞反對であると思ふものであるのだ。

しかも、此の農民疲弊を救ふ爲め小麦の代作によらんとする。併し乍ら小麦こそは、最も氣候風土の影響するこゝ甚大なるものにして一朝不測の危に遭遇せんか飢餓の渦中に投込まれるであらう。斯くの如き退嬰的救濟策は、斯く進行せる農民疲

弊の救済策としては余りにも貧弱であり過ぎる。

現今一般内地人の間には満洲に好景來を言々して居る様であるが、満洲景氣の出でることは事實ではあるが、其の景氣の實體を明確に把握して置かねばならない。

即ち、満洲好景なるものの實體は、變則的な軍事的景氣、具體的には日本の満洲駐兵權行使上より生ずる異狀なる經濟的消費的、昂奮及び各種事業建設の爲めに生じたる消費的景氣であつて、一般的ではないのみならず、生産的な景氣でもないのである。

やがて、建設が一應終り。

日本の駐兵により生ずる消費景氣が固定したならば大なる反動が生ずるであらう。然らば、農民の疲弊は益々深刻の度を加へて行くであらうことは火を見るよりも明である。今や、此の大颶風に全體としての満洲の經濟は捲き込まれんとしてゐるのだ。

四、満洲税制の缺陷

赤字を出さぬ事を唯一の誇とする満洲國の財政政策は、具體的には今日までの財政編成方法は事更に歳入を少く見積り、赤字を防ぎつ、ある「消極的財政方針」である。而して斯かる方法は現在までのところ何等缺陷を暴露するまでに至らなかつたが、康徳二年度の總豫算は六千萬圓の増収を見込まれ、頗る前途を樂觀されてはゐるが、増収の過半は租稅收入で、その三分の二は關稅増収である。

斯くの如き國家に於いては暫く間接税を基本的要素とするこは止むを得ないことであるが、其處に大なる危險性が含まれてゐる言ふことが出来る、即ち日本内地の諸産業進出、在滿諸産業の増産等は收入關稅減收の因となり農民購買力の減少も又同一の結果を招來する、保護關稅に等しい定率を有する満洲國が、國內に於ける産業政策を確立せずして、漫然と在來の關稅法規を踏襲しつゝ、關稅を歳入の基本とするこは大いに警戒さるべき事柄である。換言すれば、満洲國は満洲國の國是に則した税制を設けるこが急務であるこ信するのだ。

併し乍ら税制の改革には著しい障害が存するこは忘却されない事實である。何よりも先ず第一に日本國民がこれに關して正確なる認識を把握しなければならぬのである。

即ち、將來關稅を軽減せんとする場合に生ずる減收の補填を何物に求めるかがこれである。これを營業稅に求めたる場合を假想すれば有望なる地方はハルビン、新京、奉天等であるが、若し營業稅を現在以上に徵收するものとするれば、此處等の都市の大商店は悉く鐵道附屬地に移轉するか、又は營業所を設置して満洲國の課稅圏外に逃避するであらう。

而して適當な附屬地帯のない都邑ならば、營業主は忽ち在滿鮮人の名義人を有償借用して、朝鮮人は日本帝國の臣民として治外法權を有するが故に、満洲國に對しては納稅の義務を有しないと嘯いたならば、満洲國政府は果して何處から徵稅し得るのであらうか。又、若し消費稅を起したと假定したならば如何なるであらう。

大規模の機械生産工場は鐵道附屬地に密集するであらう、その場合、工場生産品は附屬地を離れて内地に入るまでは滿洲國收稅吏は一指だに染むるこが出来ないのだ。それが帶の如くに、そしてそれは又蜿蜒と横たわる附屬地帯の連脱監視は殆んど不可能でなくば非常に至難であり、附屬地外の同種工場は此等の連脱品の不正競争、ダンピングに壓倒されて衰運を辿る

こころなり、結局消費税は有名無實になる、斯かる一例を見ても、附屬地課税權と治外法權とがデリケートに交錯してゐるが爲め税制改革も、關稅の輕減も殆んど不可能な事態の下に置かれてゐることが判明して來るであらう。

次に内國稅を通じて滿洲國の現情を見るに、八百七十萬圓の増收見込は前年度に比し二割強に相當するが、重なるものは統稅と出產稅とで、前者は綿糸、セメント、麥粉、卷煙草に限られ、協約の繼承により稅關を通じて輸入品にも賦課され後者は糧石稅、木石稅、その他穀物、皮革が市場に運搬される際に課せらるゝものであり、その他は稅收年額五百萬圓以下である。

此等内國稅の歲入は事變前には七千萬圓と稱された。比較すれば、明年度の豫算四千七百萬圓は至難ではあるまいと思はれるが、農産物の暴落した年柄に於いて農民には相當重荷となる恐れがある。殊に徵稅の制度は各地に稅捐監督局があり、その下に稅捐局が配置され、その成績によつて見込額以上の實績に對しては、稅捐局に賞與して幾分を分配される言ふ支那式獎勵法が設けられてあるが爲め、苛酷なる徵收がないことは絶対に保證し得ないのである。若し然るをすれば、其の結果たるや推して知るべし。

鹽稅の歲入二千二百萬圓は、事變前とほぼ同一で、極めて嚴重に取締らなければ脫稅密賣買が行はれ易い。將來滿鮮國境に十數ヶ所の通路が完成し、自動車交通が便利になれば益々面倒であり、良好なる稅源とは稱し得ない。現行鹽稅は一ピコルに付き海鹽六元三、蒙鹽は五元であり、帝政實施以來僅かに各三角を輕減されたに過ぎないと言はれてゐる。人生々活上最必要品にも斯程に高率稅を課することは、舊軍閥政權の狙ひどころであつたと思はれるが、王道國家では生活必需品に對する課稅等に就いて、尙ほ充分に考慮を要するであらう。

斯く論じ、斯く見て來るならば王道の帝國、滿洲には租稅を通じて末だ仁政が施されてゐることは言ひ得ないので。

却つて年々増收計畫を希つて舊弊を繰返すか如きことは大いに考ふべき事柄である。従つて當局爲政者は斯くの如き世界各國民通有の性質、就中、支那人は課稅の輕減を敢行する王者を歓迎してゐる筈だ。併し乍ら課稅の輕減を考慮し、整理せんとしても第一の障害は日本との特殊權益關係が存在し、止むを得ず舊態をデット持續する以外に方法はないのであらう。

鹽さへ甜められないと言ふ言葉は滿洲では最も適した言葉で、輸入される鹽魚は魚よりも鹽の量で歡迎されることは、嘘の様な眞實の話である、正に滿洲では斯くの如く鹽が尊重されてゐるのだ。斯く論じて來るならば滿洲の現情は陰鬱ならざるを得ないだらうと思ふのだ。

貨幣にしてもそうだ。貨幣の改革なるものが國際的に立派である程、奥地の細民には有難さが分らないのだ。寧ろ小額貨幣の減少、官吊の廢止等で通貨の單位が大きくなり、悲鳴を擧げてゐる。補助貨としての銅錢も鑄造されつゝあるは聞いている。一厘錢の如きも必要だらう、具體的には鐵道沿線の都市を標準とした日本人の生活様式から割出された改革に、田舎の無學文盲の細民には不便が増大する。此れは獨り貨幣のみの現像ではないのである。

五、滿洲通貨政策の總觀的批判

滿洲を論ずる場合、吾人はこれを日本と結付けることなくしては論ずることが出來ないのだ。そして又、日本を論ずる場合、世界の一分野として論ずることに依つて日本の客觀性を把握し得るものと信ずる。滿洲國に於ける通貨問題を論ずる場合にも斯かる立場に起つものである。

今、各國に於ける通貨統制乃至は政策の歴史を瞥見するに、この統制に幾分の成巧を示したかに見られる國は戰後一九二〇

年から世界恐慌の直前に至るまでのアメリカ合衆國であつたらうと思はれる。そこで人々はアメリカのみが速くから通貨統制政策に着眼して来たと言ふのである。斯くてアメリカのみが物價安定に成功したと言ひ、ドル價值が全價值を支配したと言ひ、従つてまた、アメリカのみが獨り繁榮を見た言考へた。此處に斯の一部學者のアメリカ資本主義繁榮論に基く、資本主義修正論が擡頭して来た、確かに通貨及び金融の統制が過去のアメリカに於いて比較的に成功裡に遂行されたことは事實と言つても宜ろしからう。だが、それは單なる政策の巧妙なる運用によつて成功したのではなかつたか。そして、この事實は如何なる基礎條件に基いてゐたか？

戦後のアメリカは周知の如く歐洲各國の沈滞に比すれば生産は飛躍的に増進し合理化は大規模に進展した。而して、アメリカは交戦各國に對する債權國であつた。従つてアメリカは當時唯一の金流入國であつた。そしてそれは、アメリカの直接的な犠牲としてのドイツ、フランスを始めとする其他の列強の悲境によつて購はれたのであつた。即ち、事態は戦後繁榮せるアメリカの經濟情勢がその通貨の順調なる統制を可能にしたに過ぎなかつたのであり逆に通貨統制がアメリカを繁榮に導いたとは言へなかつた。亦、他の諸國は通貨及び信用の統制に不成熟であつた爲めに間断なき不況に見舞われたではなかつたか。其等の國々では、一方戦争に於ける膨大な生産の生産に基く再生産過程の萎縮、他方に残された巨大なる國家財政の債務の爲めに、不可避的なインフレーション、金流出の危機を控えて、事實上通貨信用の統制は不可能だつたのである。其の證左は世界の金舞台がますます恐ろしく恐慌に入つた後のアメリカの歴史が如實にこれを物語つてゐる。アメリカは今や最も通貨信用統制の必要に迫られてゐるのに、その通貨及び信用は正に混亂の絶頂にあるではないか。ドルの安定が最も要求されてゐる時に、最も價值不安定なドルが採用されようとしてゐるのだ。

日本に於けるインフレーションは何よりも先ず戦後に於ける世界資本主義の一般的趨勢の上にとつ。日本資本の特性就中世界恐慌の日本に於ける顯現の特殊性に基つて擷まれねばならぬ、そこで同じく危機情勢下にある資本主義諸國の中にあつて、日本資本主義の特殊的な脆弱性が重要なモメントとして現れてゐる。その農業恐慌の深さ、特殊性、其の國際貸借に現た基本的な弱さ、固定的な輸入超過、主要原料の海外への依存、貿易外收支の非發展性等々、その國內市場の狹隘と萎縮、その軍國としての經濟的基礎の薄弱なるにも拘らず迫られる軍備擴大の必要、さらに金融部門に於いてはその銀行制度の脆弱性、市中銀行にあつては貸出の過大、固定化、資金の原價高、その獨立性の薄弱、日銀への依存性、特殊銀行にあつてもほゞ同様、それは普通銀行の活動領域を侵し、産業資本の腐れ縁的固定、對支借款への固定、日本銀行に於いては「資本救済」銀行として貸出の固定、これは後に財政救済銀行にも轉化した。従つて、市中銀行が日銀への依存性にあるにも拘らず、日銀自體の金利政策による「統制」の無力化等、金準備の薄弱、日本資本主義の斯から一般的基本的な脆弱性は、恐慌進展を土台とする非常時情勢の展開につれて、突如として尖鋭化した。何よりも危機の必然的血路としてみられた滿洲事變は、日本を全面的な戦争危機の眞只中に引入れる契機となつた。これに依る財政危機の擴大、軍需、匡救インフレーションの展開、しかしこの財政危機インフレーションは、當面金融資本の支持の下に一方において潜在化の過程を辿りつゝある。併し、この情勢は他方に於いて對外爲替相場の低落過程を阻止することは出来なかつた。しかも爲替低落は當面に於いては産業資本の直接的要求に支へられてインフレーションへの迫進の槓杆となる、インフレーションの發展は、少くも日本の内部的に反映せられた諸要素の分析において不可避的過程にあるものを見なければならぬであらう。

然るに滿洲では、世界的インフレーションの浪も日本のインフレーションの加重、而して其の交錯の中に滿洲事變の勃發は

益々複雑な現象を滿洲に現出した。のみならず、前資本主義社會であるところの滿洲社會も、資本主義の高度に發展せる社會に於ける經濟的諸條件は非常に開きがあつた。尙ほ且つ支那經濟の一分野として成長したにも拘らず政治的に獨立し何れのブルックにも所屬しない。そして、此處に滿洲經濟の特殊性がある。従つて、滿洲經濟の様相を論ずる場合普通用ひられるブルジョア經濟學の理論は距離離れた新經濟理論を必要とするのである。

即ち、滿洲農産の王座を占め、滿洲の經濟的基調を司る大豆價格が十數年來の慘落を見せ、農村疲弊、農民の困窮窮乏に依り現滿洲の財界は極度の不況に陥り、人民大衆の生活は非常なる不安を感じてゐる。然らば此れを打開し、農民の飢餓窮乏の緩和を講ずる途は一に國債政策により、政府が新規事業を起し、消費を増大し、細民並に失業者の所得を増加するに共に、通貨の増發により、貨幣價值を低下して輸出を振興し、輸入を抑制し、以つて國民所得の増加を圖る以外に方法はないのである。

通貨は流轉し、資本負債を連絡してゐる、物價暴落の爲め、農民は勿論、企業家、商人が缺損を受け、對銀行關係が悪化すれば通貨の自然流通を阻害し、負債は償還不能に陥り、倒産者續出し、財界は益々不況の底を衝く、斯くの如きが滿洲國政府の金融通貨政策であり、其の政策の犠牲となり物價は暴落、農村疲弊による農民の購買力喪失になつてゐる。しかも、最近滿洲通貨金融の大動脈を司る滿洲中央銀行の最高幹部の發表によりは、「斷じて通貨の増發は敢行せざる旨」を宣言してゐるのだ。此處に滿洲經濟界の恐慌の發展を進行が豫想されるのである。

滿洲財界の不況を打開する方法は、政府が中央銀行をして國債を引受けしめ、國家財政上の運用に因り新規事業たる河川、水利產業道路改築等を起すに共に、大豆の國家附屬機關による買上等をも其の政策の重なるもの、一つに加へ、或は其他のあらゆる方法を以つて消費を増加さへすれば通貨は増發され、通貨の價值は低下し、國民の大部分を占める農民は農産物價格の騰貴

により多大たる利益を享受することになる。政府が新規事業に支出せし金額並に物價の騰貴による國民所得の増加は、相俟つて租税の自然増收及び鐵道其他の國家企業収入増大を誘發することになり、國家の歳入も亦自然的に増加する。日本に於いて「インフレーション」政策により農村が救済されなかつたことは事實であるが、日本農産物の主體たる米穀は世界的商品でないが爲め、爲替の影響を受くること少なきに比し、滿洲に於ける特産大豆の如きは世界的商品なれば、通貨の下落により其の影響を受くること頗る敏感にして輸出港に於ける特産價格の三割下落は北滿農民に於ける八割下落に相當してゐる。假に國幣の相場が二割低落せば、海外に於いて二割安價に販賣し得るを以つて、對外的進出を招來し、輸出货量價格の増大を見る結果となり、農民の所得を必然的に増大するのである。

國幣の低落に因り輸入品の市價が騰貴すれば各種産業は勃興し、生産業者は可能なる限度に於いて生産量を増加し、供給は潤澤となり、國內物價は國幣の低落に正比例して騰貴せず、その實例を日本に於いて見るに昭和六年十一月に比較し昭和八年二月の對米爲替は五〇パーセント低下したが、輸出入品を除く食料品及び嗜好品は七〇%騰貴したに過ぎない。而して、就職労働者を増し、一般國民の所得額を増加して居るのであるから、貨幣價值の低下は國民の生活苦を緩和するものであると見ることも出来る。

更に滿洲國の現状に就いて之を見るに、昭和八年の輸入總額は五億一千四百萬圓なれば、一人當り一ヶ年の輸入品消費額は僅々十七圓に過ぎず、假に一人當り一ヶ年の生活費を年額七十二圓一日額六圓とすれば、爲替に干渉ある生活費は二割三分強に過ぎずして生活費の七割七分迄は爲替に何等の干渉なきものなる事を考慮する時、國幣の低落は國民の生活を脅かすものではない事が判明するであらう。

他方、猶ほ國幣の低落は租税、鐵道運賃、其他各課金及び勞銀等を輕減するに同一の効力を生ずるを以つて、國民大衆の所得はそれだけ、増加するものである。又輸入物價の騰貴は國內に新規産業の勃興を促し同時に既設産業に對しては恰も國幣の低下せるだけ投下資本の減資を行ひたるに同様の効力を生じ、加ふるに生産物賣の販賣を容易ならしむるを以つて休止中の産業も復活し、其の生産は増加し、市場に益々活氣を與ふるに成る。

昨年度北滿に於ける一千萬圓の春耕資金貸出も一向に農民を苦しめた跡なく、其の回収も絶望の現状なれば政府が新規事業を起し、消費を増大するも、一般人民の窮乏を救済し得るに非ざるが如く考へる者もあるが、財界不況の極に達し、生活に非常なる不安を感じる現狀に於て、僅々一千萬圓の小額資金貸出を以つて不況を打開し得るを考ふるは大間違ひである。即ち、北滿一千五百萬人民中、農民は一千三百萬であるが、之を一人當りに配分すれば、平均約八十錢弱となり、此れで未曾有と呼稱される深刻なる不況の底をはたきこぎ出来るを考へるのは愚人の夢だ。

六、インフレーションへの必然的歸結

吾々は滿洲に於いて如何にしてインフレーションが必要であるかを知るが爲めに、一應インフレーションの必然的歸結への理論を究明して置くこゝが効果的であると思ふ。

インフレーションは支配階級の通貨政策であり得るに同時に、單なる通貨政策以上の經濟的必然性をも持つものである。先ず滿洲經濟界にインフレーションの必然性を述べる基礎的事相から究明すれば、大同二年度に於ける貿易狀態に於いて、輸出にありて四億二千三百三十二萬六千二百二十八圓を見、其の内の七割、二億九千四百五十四萬五千二百八十六圓が大豆及

び其他の穀類に依つて占められてゐる。次いで輸入總額は五億千四百五十四萬四千五百五十五圓を示し、内、工業品關係は三億八千二百四十九萬五千八百七十六圓を占め、これ又約七割を示してゐる。又昨年度に於ける國鐵線の輸入貨物收入を見るに大同二年四月より同三年三月末に至る間に、總額は約三千二百二十萬圓であつて、其の内の八割、即ち二千五百七十六萬圓が穀物輸送收入であるものと思はれる。又、關稅收入を見るに總收入額七千二十四萬圓で、其の内の輸出稅收入約千二百四十萬圓は農産物に依るものを見るこゝが出来、而して、昭和八年度に於ける、滿鐵社外線貨物收入を見るに、總收入五千八百四十四萬圓を示し、其の内約三千五百九十八萬圓が農産物の輸出收入であると思はれる。

即ち、滿洲國は約三億萬圓に達せんとする穀物を輸送することに依つて合計三千八百十六萬圓の鐵道收入及び關稅收入を得て居り、滿鐵は全貨物收入の約六割に相當する三千五百九十八萬圓及び其他により、會社經營の基礎的収入をなしてゐる。

換言すれば、この穀物の輸出、鐵道收入、關稅收入等によつて滿洲國の經濟は形成されてゐることを實證するものである。此處に農産物價の暴落によつて、疲弊困憊の極にある農民救済の爲めの基本的方策の具體性が窺はれるものであらねばならぬ。

大同二年度に於いては九千二百二十萬餘圓の輸入超過を見てゐるが、此れは、滿洲國の建設事業及び在留日本人の増加に依る生活必需品輸入の爲めの一時的現象であつて、大正十一年以降昭和七年に至る十一ヶ年間に就いて、其の貿易狀態を見るこ

(單位海關兩)

總輸出額	三、九九八、四三四、〇九八
總輸入額	一、三三九、七七一、〇三二
差引出超	一、六五八、六六三、〇六六

即ち、一ヶ年平均一億四千七百七十五萬千八百八十七海關兩の輸出超過を見てゐるのである。換言すれば、輸出超過こそが常態でしかも滿洲國が外國資本に依つて經濟的發展を見せつゝあるから、貿易尻輸出超過に非ざれば、滿洲の國際收支の均衡は維持し得ないのである。従つて又、投資團は滿洲國の輸出が超過状態にあつてこそ投資の安全が確保せらるものである。

然らば巨額の投下資本を有し、且つ滿洲國を工業生産品の消費市場とする日本に於ては、穀物をより多く輸出し、資本が高率利潤を得て、其の上直且つ工業生産品がより多く消費されることを必要條件とするものであつた。故に、日滿經濟上にも大なる影響を持つものであることは此處に多言を要しないであらう。従つて、其の方策は國內的に高物價政策を必要とするに同時に、對外的には低物價政策を必要とすることは當然である。

滿洲は現在日本に最も緊密なる交易關係にあると共に、經濟的には日本のプロクク内にある。而して、滿洲國の通貨政策は英國乃至は印度に於ける爲替相場如く、相場が安定されてある同一理由から、日本の圓に對して一定の相場を保たしめねばならないのである。然るに、滿洲中央銀行設立當時の國幣百圓に對して圓七十圓乃至八十圓の間にあつた、それが今日では百二十圓内外の相場となり、國幣價の圓に對して六割餘の暴騰を示して居り、圓が國幣に對して六割餘の暴落を見せてゐる。

即ち斯かる現象は前記の國內的高物價政策及び對外的低物價政策と正反對の事相を現出せるものであり、滿洲國經濟の現状を招來するに至つた大なる原因をなすものである。具體的には、斯くの如く國幣相場が圓價に對して安定が保れないものとすれば、將來に於ける日滿經濟上の大なる障害を生ずるものであることは想像に難くない。

此の國幣暴騰が大豆に及ぼしたる影響を見るに、大豆一應の運賃は北滿泰安より大連迄の間に於いて國鐵線は國幣二十二圓

二十二錢、滿鐵線が金九圓七十五錢であり、四月十三日の大豆相場大連で百斤鈔票三圓二十錢であるから、これに麻袋一枚金五十錢として、鈔票百圓對圓百十九圓、國幣百圓對金票百十圓を規準して算定すれば大連での一應の大豆は金六十二圓四十八錢となり、此の外に輸出税として百斤に付き金十六錢を徴收されるから總計六十五圓十錢が大連に於ける對外的相場となることになる。

泰安驛に於ける大豆相場は一應僅か國幣の二十圓九十錢である。その内から農家より驛迄の運賃と二分五厘の銷場税及び問屋の口錢等を相殺すれば、大豆は無價値に等しい程安價なものになる。輸出品たる大豆にありて斯かる事實とすれば、他の農産物の安價なるは推して知り得られる。路傍の雜草にも等しい程に安價に生産物を賣らねば生活出来ない農民の窮狀は全く非人間的である。抑々農産物の斯くの如き暴落は、勿論農業恐慌の渦中にあることを物語るものではあるが、滿洲國人民大衆の通貨缺乏が大なる原因となり、それに拍車をかけるものであることが次の事實の究明に依り判明する。

- 昭和七年七月中平均國幣發行高及舊紙幣 二八一、二八九、〇〇〇圓
- 昭和八年一月中平均國幣發行高及舊紙幣 二四六、二四七、〇〇〇圓
- 昭和八年十二月中發行國幣、補助貨、舊紙幣 一六七、七二二、〇〇〇圓
- 昭和九年四月八日より十四日に至る平均發行高 一一九、九七八、三八七圓

國幣發行高	一一九、九七八、三八七圓
鑄貨發行高	五、五七四、六五一圓

以上に於いて見たるが如く、通貨流通額は發行通貨の外に預金、信用通貨を殆んぞ持たないのだ、斯かる事實に徴して、三

千萬民衆の通貨量としては餘りにも僅少であり、特に斯かる少量の鑄貨である事に徴して、滿洲國の人民大衆は殆んど通貨經濟を營んでゐないに斷言しても何等不當でないのだ。

滿洲國人民大衆が通貨經濟を營み得ない由因は、國幣が人民の實生活に比して餘りにも高價であるが爲めであり、換言すれば、人民は通貨が餘り高價であるが爲めに所持し得ないことである。

吾人は日本の史的事實に見ても、米價が安價であつた時には一厘錢の如きの流通を必要とした。滿洲國農民の現状は丁度此れに似た條件に遭遇してゐるにも拘らず、日本の通貨價值より高い國幣の使用を強ひる事は、人民大衆に取つては不便極まるものであり、且つこの通貨政策が國民生活を破壊しつゝあることを推定するに難くないところである。

此の國幣の暴騰が大豆相場に及ぼしたる實際を考察するに、國幣相場が、國幣百圓に對して圓七十圓であるものとすれば、前記の國鐵線運賃は十五圓五十錢となり、泰安驛に於ける大豆一廳は國幣三十一圓九十三錢となり、現在より約六割高値となり、此れは同時に輸入品にも同一結果を齎すものであるが故に農民は穀物を六割高く賣り、買ふものは六割引運賃と言ふことになり、現在より懷具合は良くなることになるのである。

國幣の騰貴に依り利益を得つゝあるものは、國家は對外支拂關係に於いて有利となるが、事實は鐵道貨物收入の減少となり、つて現れるが爲め、得るどころはなく、日本の物貨資金勘定で生活してゐる滿洲國官吏が俸給を六割高の給與を受けることに依り、其俸給の一部を上海地方に於ける銀行交通銀行に預金しつゝある實情を現出してゐる。又、支那本土より流入する出稼移民が高率労働賃眼を受給されつゝあるに過ぎないのである、然らば此等一聯の土を離れた特殊階級や特殊層が國幣の暴騰による恩恵に浴してゐるのみであるに極言しても過言ではあるまいと思ふ、斯かる國幣の騰貴は、日滿經濟關係に次の如き結

果を招來するものである。即ち、滿洲國が日本の投資國であり、其の投資の利潤が滿洲農業生産品の對外的輸出の盛衰如何に因つて左右され、若し現情の如き對内的低物價情態を續け、對外的には高物價情態を持續する限り、日滿經濟の修交は破壊され、資本は逃避するの必然的運命を見ねならないであらうに信ずる。而して又、對内的低物價情態は、外國移入品の洪水的流入を招き、滿洲をして外國生産品に依り混亂せしめることになるのである。然るに一方、三千萬人民大衆の九割を占める、農業國滿洲の基礎的主體たる農民が塗炭の苦しみを甜めつゝあるのだ。

今日、世界の大勢は國民の實生活に則したる通貨制度を欲求してゐるにも拘らず、斯かる通貨制度を強行することは、恰も專制治下に於いてのみ敢行し得る事柄である。資本關係の少ない滿洲國人民が年々の農産物が主たる資本であるが爲め、通貨の暴騰を悦ぶもの尠く、大多數は通貨の下落より生ずる物價の騰貴を悦ぶものであることは多言を要しないところである。又、滿洲國の現存經濟情勢に於いては投資に對する安全と利潤は、滿洲國の自給自足經濟からは受けられない、それは農業生産品の對外的輸出に因つてのみ受け得るものである。従つて、滿洲國の通貨政策は理想主義であつてはならない。その國土の實際に則した國民生活に利便な通貨政策であらねばならないのである。然るに、通貨價值の下落時代に、國民生活を犠牲に供するが如き政策は、人民大衆を裏切るものである。其の唯一の方策はインフレーション以外にはないのだ。具體的には國幣の通貨價值を低落せしめる事である。これこそが、國民大衆の欲求に則した通貨政策である。

..... (39)

膨大なる費用を農民大衆に負擔させることに依り建設されつゝある國都が、着々其の完成を急ぎつゝある時、滿洲國の通貨政策は理想主義の殻も一歩も出でず、國民生活を犠牲にしてゐる。果して然らば、王道政治の本義は何處に存するであらうか我等、斯く見て來るならば、今更ながらに御仁慈深かりし我等の宗祖、長くも仁徳天皇の御仁政を思ひ奉るのだ。

此處に王道政治の本義を歴史的事實の上に見出すのである。

我等此處に祖國の興榮を擔ひ滿洲の地にあり、滿洲國の王道國家建設の第一歩に於いて大なる天の試練に遭遇せるものである、滿洲國の生誕は、先ず極東プロック完成への先驅的工作として朝鮮民族の民族發生史的墳墓の地への還元を其の解決であることを判然と知らねばならぬ、そして、滿洲國將來への發展的展望の過程に於いて、當面の問題は、國民生活安定の爲めの政策、即ち通貨價值の引下げであるを信する。

日本に於ける生産關係は農民四四%、工業勞働者四〇%、殘餘が其他と言ふ割合を示してゐるが故に、日本に於ける農業生産品の國內的消費量は全體に於いて均衡を保持し、且つ主要輸出品は對外的低物價情態を保つてゐるが爲めに、世界市場に於ける、メイド、インニツポンの躍進を見せてゐる現情である。此れに反して滿洲國では、通貨の暴騰に依り對外輸出品たる特産農業生産物を對外的高物價政策の下に驅使し、益々經濟社會を疲弊させつゝある。換言すれば滿洲國人民大衆中の九〇%を占めるが農民であり、其の農業生産品の國內的消費の殘餘の對外的輸出が、全然誤謬であるところの對外的高物價政策下においてさへ三億萬圓を超過せんとする勢を示してゐる。然らば、滿洲國の發展、其の經濟的發展は、農業國滿洲としての本質的發展の途を辿らせることによつてのみ期待し得られのであると言ひ得る、滿洲に於いて生産されつゝある農業生産品の發展的躍進は、九〇%を占める農民生活の向上に因つてのみ期し得られるのである。其の方策は、通貨價值の引下げに依り、對外的には低物價政策を取り、對内的には高物價政策を採用することにより、滿洲國の農業生産品は世界の市場の關稅障壁を蹴飛ばして、より以上世界市場を席捲するであらう。従つて、其の輸出額三億萬圓を遙かに凌駕するであらうことも想像するに難くない。換言すれば農業國滿洲の本格的な、そして本質的躍進は現情勢下に於ける條件の下ではインフレーションより以外に道は

ないのだ、而かも此のインフレーションたるや、滿洲が世界市場へのより積極的進出の可能を農民生活向上への一石二鳥の方策であるのだ。

元來滿洲國建設の大義は、滿洲三千萬民衆の燃ゆるが如き熱意に基き、農業國滿洲の建設であつた、其の故に、大和民族は此の熱鐵の如き民衆の決意を拘んで積極的に援助し、参加したのである、斷じて、農業國滿洲の基本的主體條件たる農民を疲弊困憊させ、支那本土から流入する出稼移民を、滿洲國官吏の懷を肥やさんが爲めでなはかつた。

然るに、事實は其れに對蹠的に展開し、滿洲の現情は農民の實生活を犠牲に供して國都を建設し、官吏の懷を肥し、しかも農民救済の唯一の途たるインフレーションを斷行しないを中央銀行當局は公言する。農民をして現在の非人間的な生活より奈落へ投り込んでさうすると言ふのだ。中央銀行當局は農民をして匪賊化せんことを強要しつゝあるものだと言はれても何等辦解の餘地はないであらう。我々大和民族は農民の匪賊化への強行の爲めに滿洲國建設に参加したのではない。軍閥治下の苛飢誅求に泣く農民の窮狀黙し得ず、遂に正義の義軍を起したのであつた、それが、今や斯くの如き現情であることは土を忘れた農業國滿洲の前途に危険を感じざるを得ないのだ。

.....(41).....
若し、インフレーションにして斷行するの勇氣が滿洲國政府當局にないならば、滿洲の前途に横たはる危険を脱却する一方法として農業生産に従屬する農民の生産を中止し、全農民を動員して、國道、縣道、河川、土木等産業に關聯する一切の土木工事を起して産業道路を修築し原始的悪道路を改善することに参加させ、公債の發行に依り、其の勞働賃銀を國庫負擔により支拂ふ方法より以外に途はない。蓋し、此の産業道路こそは、他日、滿洲國の産業開發上に大なる意義を持つと同時に軍事的にも大なる意義を持つるものであらねばならぬ。

今や、滿洲農民は疲弊其の極に達す。農民怨嗟の聲は村落から村落へ擴大して行く。前途暗黒化せんとする時、果して如何なる方策により農民を救済すべきかが最緊急事であらうと思ふ。

(完)

参 考 資 料

昭和九年度天照村農耕資金償還及新規起債明細書

註

- 1、升量單位、通遼升、通遼升一石ハ我が一石九斗二升六合
- 2、土地單位、一方地、一方地ハ四十五天地、一天地ハ我が七反二畝
- 3、金換算率、金一百圓對滿洲國幣九十圓
- 4、穀 價、十一月五日錢家店相場

一、耕作面積

内 譯	面積
一果樹耕地	九二・七五 ^{天地}
花拉火燒耕地	八三一・七五
	九〇・〇〇

二、農耕資金一部返済ニヨル天照村收支計算

大 種 別	1、收 入	2、支 出	差 額
大豆	三二八・七〇 ^天	五〇五・〇〇 ^石	〇・九〇 ^円
	作付面積	總收量	單價
	七、七二三・四〇	四、五四五・〇〇 ^円	

高梁	二七八・三五	一六二・〇〇	〇・七〇	一、八三四・〇〇
粟(谷子)	一七一・一〇	二八・〇〇	〇・六三	一七六・四〇
小豆	八二・〇〇	一九・〇〇	〇・九〇	一七一・〇〇
綠豆	六二・六〇	二〇・〇〇	〇・九五	一九〇・〇〇
蕎麥		七・〇〇	〇・五〇	三五・〇〇
小麻子		三二・〇〇	〇・九〇	二八八・〇〇
大麻子		四・〇〇	一・〇〇	四〇・〇〇
莫豆		一四・〇〇	〇・八五	一一九・〇〇
合計	九二二・七五	八九一・〇〇		七、七二三・四〇

2、支出

1、畝捐

内譯

一果樹耕地

六〇〇・〇〇

六四五・〇〇

三、〇九七・五〇

但シ 畝損一田地當リ一元、計八百三十一元也ノトコロ水害ノタメ二百三十一也ヲ減額セラル、モノト見テ

花拉火燧耕地

四五・〇〇

但 東亞勸業公司ノ所有地ナルヲ以テ同社ト協定折半負擔スルモノトス

收入	七、七二三・四〇
支出	三、〇九七・五〇
差引	四、六一五・九〇

3、收支計算

口、定租(小作料)

内譯

一果樹耕地

一、〇六五・〇〇

一、三八〇・〇〇

但 一田地高粱五斗、一斗四十錢替ノ割、計一、六六三・五〇ノトコロ水害ノタメ五九八五〇ヲ減額セラレタリ

花拉火燧耕地

三一五・〇〇

但 一田地當リ高粱五斗 一斗七十錢ト見テ換算九〇天地分

一、〇七二・五〇

内譯

常備苦力下半年未拂分勞銀

九九〇・〇〇

但 常備苦力三十三名一名、三十元宛ノ計

同上十一月末迄一ヶ月間ノ食費 八二・五〇

但 一人一ヶ月二五〇ト見テソノ三十三名分

4、農耕資金一部返済

收支差引殘金

四、六一五・九〇

金換算(一一〇替)五、〇七七・四九

返濟金

五、〇〇〇・〇〇

差引

七七・四九

三、新規起債明細

前掲農耕資金、金八千圓也ノ償還ヲナセバ直チニ十一月ヨリ翌三月ニ至ル五ヶ月間ノ生計費雜費ニ窮スレ状態ナルヲ以テ金三千圓也ヲ起債スルコト、ス

1、冬期間副業收入

三、四五〇・〇〇

内譯、馬車運搬ニヨル收入

一、二〇〇・〇〇

但馬車一台ニヨル一日ノ收入二元ト見テソノ十台六十日分

樹木伐採ニヨル勞銀

二、二五〇・〇〇

但 通達縣ニ於ケル農民救済伐木事業ニ二十五名ヲ参加セシムルトシ勞銀一日一人一元二十錢平均ト見テソノ七十五日分

2、支出

五、八二九・六二

内支譯

○生計費

一、二四九・〇〇

但 一ヶ月一人三元二十五錢、小遣錢一ヶ月一人一元六十錢平均ソノ六十八人五ヶ月分

○村公會費(十二月末日納入)

二七四・〇〇

但 一果樹耕地八百三十二天地七分五厘ニ對スル村費負擔

○防寒被服費

四九六・四〇

但 作業用防寒被服一人當リ七元三十錢ソノ六十八人分

○飼料費

三、二四七・五〇

但 高粱一馬一頭一日二升ヅ、トシテ六十五頭五ヶ月分百十五石

驢馬一頭一日一升ヅ、トシテ二十五頭五ヶ月分三十七石五斗計二三三石

五斗價額 一、六二七・五〇 (一斗七十錢迄)

豆餅一馬一頭一日三斤ヅ、トシテ六十五頭五ヶ月分三萬九千二百五十斤

價格 五八五・〇〇 (一斤二錢替)

谷草一馬一頭一日十五斤、見テ六十五頭五ヶ月分二萬九千二百五十斤

驢馬一頭一日七斤ヅ、ト見テ二十五頭五ヶ月分五二五〇斤計十七萬二千

収入差引現金

百斤 一、〇三五・〇〇 (百斤六十錢替)

○燈火料 五二・五〇

但 石油一戸當り五十錢ト見テツノ二十一月分

○冬期副業老板子(馬夫)給金 三六〇・〇〇

但 馬車一台一名、給金一人十二元ヅ、トシテツノ三ヶ月分

○事務所費 二五〇・〇〇

但 一ヶ月五十元ヅ、トシテ五ヶ月分

3、十一月ヨリ翌三月末迄新規起債ニヨル収入

A、収入 六、七九五・〇〇

内 副業収入 三、七九五・〇〇 (金換算一圓十錢ノ割)

會社借入 三、〇〇〇・〇〇

B、支出 六、四一二・〇〇 (金換算一圓十錢ノ割)

C、差引 三、八二二・四二

附 言

▲日本農民は苦惱のドン底にある。勿論、世界恐慌の一分野として日本の經濟的分野が當然擔ふべき農業恐慌の深化に由因ものするである。併しながら、此處で吾人は一應農民の正しい姿を透視して見る必要はないであらうか、換言すれば、日本の農民は果して正しい本來的の天の使命たるの本分に起脚してゐるであらうかと言ふ疑問である。斯かる言動は確かに片手落の言動であるかも知れない。だがしかし、金融資本家に、既成政治家に、或は社會運動家のデマゴギーの徒に禍いされて、やゝともすれば其等に迎合せんとするきらいがある。或は意識的であると無識的であるとに拘らず、其等の傀儡となつてゐることもあるやうだ。

成程、現情勢下にある農民は、凡ゆる機會を通じて自己の地位向上、窮乏よりの脱出を企圖しつゝ、あることは事實だ。だが、窮乏より脱出することに餘りに急であるが爲め、不測の奸計に乗せられる場合が往々ある。斯くては農民本來の使命に反するものであると言はねばならぬ。政府の援助を受けることも非常に効果的であらう。地主、資本家、社會運動家と合流することも結構だと思ふ。

併し、此等の一聯の土を耕すことに直接關係を持たない階級層と農民とは、一つの連鎖はなしてゐるが全然相違した範疇に屬するものである。

然らば、農民は、農民自身の鐵の如き意志の下に結束し、自からの地位向上、擁護の爲めには自からの力

に依つて一切を政行せねばならぬ。換言すれば、農民は先ず自らの價値に覺醒しなければならぬのだ。土に立つものは倒れず、土に活くるものは飢えず、土を護るものは滅びず。

▲國民の選良既成政治家は飽くまでも國民の選良であり、國民の公僕であり、國民輿論の代言人であり、爲政者に對しては監督の立場にもあるのだ。

然るに、彼等は自己の職分を忘却し、國民の意志を無視してひたすら自己の位置防衛、私腹を肥すことに寧日なく狂奔する。他方、同一主義主張の下にある人々は相合流して政黨を形成し、政黨的勢力に依り政權を狙ひ、爲めに國民大衆を冒瀆し、國民の利害を蹂躪することを恥としない。

斯くては代議政體としての形態を皆無とせるものと言はざるを得ないだらう。果して然らば、何が爲めの選舉ぞや。農民、労働者、兵士の蜂起は當然であると言はねばならぬ。

即ち、彼等に國政を委ねることに國民大衆は不安を感じて來たものである。斯の世界を震撼させた五・一五事件の如きも、政黨政治家と財閥とが結託し、政界、財界、社會を亂すこと甚だしき爲め、國民大衆の忿怒が炸裂したものである。

今や、國民大衆の信頼を離れた既政黨及び其の亞流は必然的に没落を辿るより以外に途がないだらう。唯だ此處に彼處が自力甦生をなす爲め自己清算をなし、國民大衆に罪を謝し、國民の選良たるの本分に還り、飽くまでも國民の總意に基き行動すべきであらう。

▲現經濟機構の最高王座に位するものは金融資本であらう。それは一切の産業網の中樞を掌握し、貿易網をも左右する魔力を持つ。往々にして政治さへ左右する力を發揮するのだ。

併し乍ら、今や金融資本の牙城に人民大衆は肉迫しつつある。そして彼の手中から政治を、産業を、貿易を、最後に其の人間性奪還の聖戦が闘はれつつあるのだ。社會を隨落させ政治を汚辱し、經濟組織を崩潰せしめた過去に對する責任は當然自己に於いて清算せざる限り、大衆の肉弾に因り決定的破壊を受けるであらう。今や、金融資本の當面せる案件は、大衆に自己の王座を明渡すべきことであらう。でなければやがて彼等は大衆の壓力に因り決定的爆撃を蒙るであらうと信ずる。

▲軍は最も神聖なる正しさの權化である。然るに軍は自らの正さの故に政界、經濟界、社會の汚濁に忍び得ずどなし全社會の淨化を企圖してゐる。其の壯圖や吾人の鑑銘するところである。

だが、此處に問題となることは、自己の正さの故に汚濁せる全社會を淨化せんとするこの餘りにも急なるが爲め、政黨に對しては第三黨的存在となつて雄姿を現はし、財界に對しては威壓的存在となり圓滑なる經濟活動を萎縮せしめる場合が生ずることもあらう。

而して、人民大衆に取つては、軍の夾颯たる雄姿が全線的に現はれることは一つの威壓となり壓迫と化す場合も生ずるのだ。此處に軍の將來に對する大なる危機を想像するのだ。即ち其動機は頗る鑑銘するに足るも、今や、一つの威壓的勢力と化さんとする。斯くては國民の政治に對する全部的參加も、經濟に對する全

副的参加も、社會に對す批判力も萎縮する結果を招來しはしないか？、吾人の大いに憂へざるを得ないところである。正に軍の神聖なる威力により日本の全社會は淨化の過程に入つた。具體的には政黨、財閥、社會運動家のデマゴギーに對して正確なる判断を國民が下し得るに至るまで軍を通じて全社會の淨化をなさんとするものである。而して、國民大衆が軍の力を貸らすして、それをなし得る迄に成長して、然る後軍の初志や此處に實を結べるものと言ふべく、軍は其の本來の使命、兵馬の權の掌握に還るべきが至當であると思ふのだ。

正に軍は神聖なる皇軍である。それは上、將軍より下は一兵卒に至るまで重大なる責務を鑑銘し、其の行動を常に正しくし、若し不幸にして其の行動を誤らんか直ちに神聖なる軍全體に及ぼすところ甚大である。然らば軍の行動たるや正々堂其の間寸豪も曖昧を許さないのだ。強く、正しく、明くとは吾人の軍に要求して止まないところである。

(尙ほ其の各項に就いて機會を見て詳細究明開陳するの意志を持つこゝを約束するものである)

(完)

昭和九年十一月二十日印刷
昭和九年十一月廿六日發行

『建設期滿洲の經濟方策』奥附

大連市信濃町一八番地(アジアホテル)

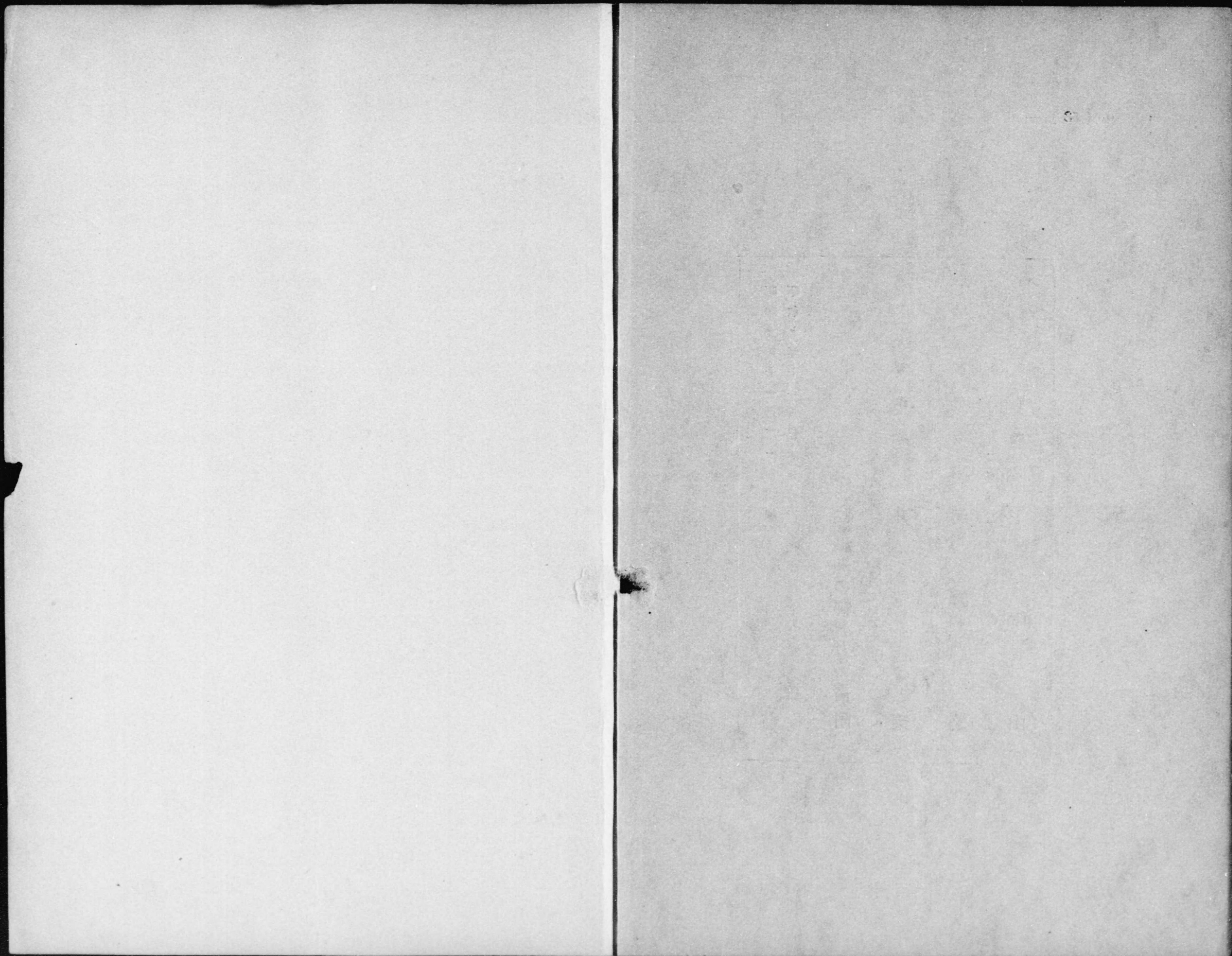
著 者 井 藤 榮

大連市越後町二八番地(滿鮮社)

發 行 者 河 野 繁

大連市近江町四三番地

印 刷 者 王 雨 山



PATENTED NO. 119016
 CAT. NO. 853
 "F-M"
PAMPHLET BINDERS
 are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851 (菊倍)	30. cm.	x 22.5 cm.	x 1 cm.
852 (四六倍)	26. "	x 18.5 "	x 1 "
853 (菊)	22.5 "	x 15. "	x 1 "
854 (四六)	18.5 "	x 12.5 "	x 1 "
855 (特)	24. "	x 15. "	x 1 "

Special sizes are made to order
Library Supplies in All Kinds
F. MAMIYA & CO
 OSAKA TOKYO-FUKUOKA

